

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 貴志南小学校
校長氏名	犬塚 博志
作成日	平成30年3月3日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成を目指す。
 ーたくましい子、やさしい子、考える子ー

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域との連携を深め、子どもたちをみんなで見守り、育てる学校 ・地域の人材や産業の活用 ・学校の教育活動や行事等を家庭や地域に積極的に広報 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の気持ちを理解し、思いやりのある子どもの育成 ・自尊感情の育成 ・規範意識のある子 ・互いに協力する子の育成 ・生命を大切にする子の育成 ・進んであいさつのできる子の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○「豊かな学力の充実をめざして」～自己表現力を豊かにし、仲間と関わりあいながら伸びていく子どもの姿を求めて～ ・学習の基礎・基本の習得 ・児童の側に立った教育活動の工夫 ・児童の表現活動の育成 ・授業力の向上

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観への参加啓発と懇談会の工夫 ・HPの活用 ・児童集会への参加啓発 ・育友会行事、子どもセンター事業への参加啓発 ・地域の人材の活用 ・体験活動の重視 ・行事等の広報活動 ・学校開放月間の広報活動 ・「貴志の教育を高める会」「貴志地域共育コミュニティ」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちどく」の推進 ・道徳教育・人権教育を中心に学校教育全般で規範意識や自尊感情の育成 ・ペア学年活動や仲間づくりの活動の工夫(運動会種目でのペア活動) ・生活習慣の確立 ・あいさつの励行 ・体験活動の重視 ・QU等アンケート調査の実施 ・貴志小学校の人権教育研究発表会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実 ・漢字博士検定の実施(再チャレンジ制導入) ・補習学習(放課後・夏休み等) ・各教科指導で「書く・聞く・話す」に重点をおく。 ・視写テストの実施 ・取り出し指導など個に応じた学習の導入 ・小グループ学習の導入 ・体験を通じた学習の重視 ・学習習慣、学習環境の確立 ・和歌山大学等の教育実習生を受ける。 ・和歌山市指定教育研究校2年次として研究授業発表 ・研究のまとめを論文にして提出する。
----------	---	---	--

取組の結果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開のためのHPは可能な限り更新できた。「修学旅行速報」は保護者からも好評。今年は「5年生合宿速報」も行った。 ・9月の「夏休み作品展覧会」11月の「作品展」は保護者のみならず地域の方にも大勢観賞いただけた。 ・地元の農家の方に指導していただいた野菜作り、米作りは体験を通じた学びを得られた。 ・育友会や子どもセンター主催の「夏祭り」「餅つき大会」は大勢の保護者・地域の方々の参加を得、交流が深まった。 ・集会等では多くの保護者に参観いただけた。 ・3学期の「ありがとう集会」では、お世話になった見守り隊はじめ、体験学習に協力してくださった地域の方を招く。 ・「貴志地域共育コミュニティ」の事業をはじめたおかげで、地域の教材・人材をより活用でき 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは児童会や先生によるあいさつ運動により活発になった。見守り隊の方々も積極的に挨拶を促してくださっている。 ・民生児童委員の方々が毎月1回校門であいさつ運動をしてくれ効果を上げている。 ・「いじめアンケート」に加え、QU調査により、児童の関係性の把握に努めることができ、アンケート結果からも学校全体の意識も高い結果が得られた。 ・昨年に行っている「ありがとうコンサート(集会)」で世話になっている方々への謝意を表す大切さを学ばせることができた。同時に子どもたちの表現を大勢の方々に発信できた。 ・貴志小の人権教育研究発表会の研究授業・協議会には本校教員全員が参加。講演会には貴志ブロックの3校の教職員が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「にじ色ルーム」を設けての個別の指導は、成果は認められるものの、教員数の関係で必要最低限の時間数である。 ・「九九階段」「いろは階段」やデジタルサイネージでの学習クイズ等の学習環境づくりは一定の効果が認められた。 ・学生ボランティアによる授業補助、外部の講師を招いての「出前授業」は普通の授業を活性化できた。 ・放課後フォローアップ事業で支援員・学生ボランティアとともに担任による補充学習は有効。 ・漢字検定は、本校独自の取組として再チャレンジ制を設け、意欲の持続を図れたが、保護者の評価はさまざま。 ・市教委に提出した教育論文は、グループ部門で最も上位の「優秀賞」を受賞した。
-------------	--	--	---

改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・参観授業や集会の参観は多い一方、懇談会の参加が少ないので、学級だより等の研究をし、より分かりやすい広報について研究する。 ・育友会と子どもセンターで見守り隊の方に謝意を示す「餅つき大会」などを広めていきたい。 ・よりいっそう「貴志地域共育コミュニティ」の取組を活性化し、地域との連携を図りたい。 ・特別支援学級の初詣体験のように地域素材を教材化し開発するよう努める。 ・「コミュニティ・スクール」を実施してより地域との協働を図るとともに、保護者のニーズに合った懇談等話し合っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度4年生の「障がい者問題学習」などのように、関係機関や支援学校の協力を要請して体験を通じた人権学習をより組み入れていく。 ・特別支援学級との交流を更に活性化して、児童への障害者理解を促進していく。 ・来年度から実施する「特別の教科 道徳」の授業の充実を図ると共に、特別活動・総合的な学習の時間・生活科など体験を通じて、実践力を養う。また、意欲につながる評価についても研究していく。 ・アンケート等の結果からは読書量の減少は改善されていない。特に家庭での読書時間の確保の協力を仰ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」は今後もアンケート評価100%目指し研修等を通じ授業力を高めたい。 ・今後も、あらゆる子どものために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基本としたい。 ・道徳・外国語の教科化、中学年の外国語活動に伴い、指導力の育成を進める。 ・市指定教育研究校の指定は外れるが、来年度も何らかの形で研究発表を行い、授業力向上につなげたい。 ・昨年度のように、取り出し授業は来年度は2クラスに、また放課後フォローアップ事業は2人となるよう関係機関に働きかけていく。
---------	--	---	--

3 その他の課題

・年々、個別の支援を必要とする児童が多くなっている。来年度はどれだけの教員を充てられるかは未定だが、大勢の中より個別の指導が望ましい児童のために努力したい。また、関係機関と連携をとりながら、その子にとって最善の環境を提供していきたい。

・校舎の老朽化が目立つが、関係者評価やアンケートでは少しずつ評価があがりつつあるのは、プール・廊下・階段の壁を職員で塗り替えしたり、少額でできる改修を地道に行ってきた成果と考える。教室の空調設備が終了し、今後は使用の仕方を検討していきたい。・評価委員の指摘に従い、「ゆたかな心」⇒「たくましい体・ゆたかな心」の観点にする。